

第1回 鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会 議事録（概要）

日時 平成27年11月24日（火）17時30分～19時45分

場所 鎌倉市役所402会議室

出席 深野会長、浅川委員、石井委員、大道委員、奴田委員、橋詰委員、波多辺委員、保坂委員、牧田委員

＜事務局＞

環境部 石井部長、植地次長、小池次長、遠藤次長

資源循環課 内海担当課長、谷川担当課長、佐藤担当係長、野田担当係長、吉田担当係長、安倍職員、中澤職員、大谷職員

環境施設課 近藤課長

環境センター 佐藤担当課長、杉田担当課長、脇担当課長

ごみ減量・資源化推進担当 谷田担当課長補佐

傍聴者 8名

会議の前に第15回審議会の議事録の内容について了承され、公開とすることが確認されました。

報告事項 1 戸別収集の検証結果と今後の対応について

議題 1 第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画について

その他 1 次回の当審議会の開催日程等について

報告事項 1 戸別収集の検証結果と今後の対応について

事務局から家庭系ごみ有料化の実施状況、戸別収集の検証結果と今後の対応、戸別収集の今後のスケジュールについての報告を行いました。

深野会長：前回の審議会では、戸別収集のアンケートに関して委員の皆様からいろいろな意見を出していただきました。その後、市で検討し、戸別収集について行政の方針を出したとのことです。

波多辺委員：資料1－2ではモデル地区の約63.1%の方が賛成しています。逆に言うと36.9%の方が反対しています。戸別収集実施のための費用が最大4億円で、クリーンステーション地区の回答では、75.2%がそのままよいとのこと。戸別収集を実施している自治体をヒアリングするか、または戸別収集を行っている地域をクリーンステーション収集地区の人が見て、戸別収集は良いという市民の意見が盛り上がってこないと性急な実施は難しいと思います。ごみ収集は税金で賄うべきものであると考えています。有料化によって市民の負担が増えるのに、資源物の収集回数を見直すというのはサービスの低下につながりますので、避けた方がよいと思います。有料化で得た費用は新焼却施設の積立に回すと言っておられますが、これは当然だと思います。本来であれば税金で賄うのが大前提です。

谷川担当課長：戸別収集地区での賛同率63.1%というのは、3品目の戸別収集を希望している方の数値です。燃やすごみ1品目と現状の3品目の戸別収集を希望されている世帯は合わせて81.8%となっています。

波多辺委員：クリーンステーション地区の方のうち75.2%がそのままよいということなので、その方々の理解も必要だと思います。市の財政が厳しい中、4億円使うのはいかがかと思います。

牧田委員：4億円の費用対効果を考えるべきだと思います。また、資源物の収集回数の見直しも家庭に

としては非常に負担となり、理解を得るのは難しいと思います。植木剪定材も紙類も、家庭では週1回の収集を心待ちにしています。今後市が予定している燃やすごみ1品目の戸別収集にするのが良いと言っている人が7%しかいない中で、実施は難しいと思います。資源物の収集を従来通り行うというのであれば多少は理解を得られると思います。モデル地区の方々の意見を見ると戸別収集はメリットがあり、市民の負担軽減になると思いますが、全市で実施する前にもう少しメリットやコストパフォーマンスの面できちんとした理解が得られなければこのスケジュールは難しいと感じました。

石井部長：ご指摘いただいた点はその通りと思います。費用の面では戸別収集を行うことで最大4億円増加するというので、それをいかに下げていくかということです。収集の見直しについてですが、飲食用カン・ビンについては収集回数を見直さず、コンテナの事前配布、回収という流れを変えようと考えており、市民生活への影響はそれほどないと思います。ビンについては週2回になり、収集回数が増えます。収集回数の見直しについては、経年変化で資源物が少しずつ減少しているためご提案していますが、慎重な対応が必要だと考えており、しっかりと市民の方のご意見を伺いながら対応を考えていきたいと思っています。アンケートの検証結果では、クリーンステーション地区とモデル地区では逆の結果になっています。なぜクリーンステーション地区の75.2%の方が今のままで良いのかと考えていくと、防犯面や景観面などいろいろな懸案があります。モデル地区については先行実施となりますが、その他の地域は平成29年からスタートすることになりますから、来年1年間をかけて市民の方々にモデル地区の方々の声を実際にお伝えし、ご説明させていただきたいと思っています。

石井委員：以前2億円の増額であったのが、4億円となった算定根拠をもう少し示すべきです。他市の状況を説明していますが、他市と鎌倉市は地理や条件が異なると思います。他市でうまくいっているものが鎌倉市にもあてはまるとは限りません。モデル地区の世帯数で鎌倉市全体の意見と捉えてよいのかどうか、もう少し広いモデル地区があってもよいと感じます。七里ガ浜の方々は賛成が多いようですが、クリーンステーション地区の75.2%の方は反対しています。これだけのお金をかけて皆さん本当に賛同するのか、もう少し時間をかけて検討すべきだと思います。タウンページの記事では、平成30年を目指して実施することを市が最終的に決定したように受け取れます。町内会の役員会や班長会議では、毎回ごみの問題は出ますので、記事のことをどのように皆さんにお伝えしたら良いのか悩んでいたところです。このような市の方針が出ますと、市議会を通して発表されたものと思いましたが、最終的に実施を決定したわけではないということです。これだけのお金をかけて、皆さんが本当に賛同するのかどうか、もう少し時間をかけて検証すべきだと思います。

谷川担当課長：石井委員からご質問もありましたので、それも含めて申し上げます。モデル地区は3,500世帯で、鎌倉市の人口の約5%となります。鎌倉は谷戸地形や道が狭い地区があるということで、収集可能かを検証するために鎌倉山や山ノ内地区をモデル地区に選定しました。他市との正確な費用比較は難しいと思いますが、経費については、市内のそれぞれの地域の実態に合わせて収集エリアを区切り、算出しています。経費についてはこれまでと比較して割高な部分もありますので、削減につながるような見直しをしていきたいと思っています。

大道委員：4億円という金額は、ごみの量が減れば少なくなるのではないかと思います。アンケート結果から、モデル地区の方のご意見が戸別収集開始当初から徐々に変わってきていると思います。そういった点を市民の方に伝えることにより、さらにごみの意識も変わり、このような

施策により削減されることは必要ではないでしょうか。ごみに対する意識は高まっているので、先延ばしにするよりも、前に進んでいくという考え方の方が良いと思います。

深野会長：継続して前進していくことが必要で、経費もそれに見合っていくのではないかとご意見です。

橋詰委員：以前の話では、戸別収集を実施することによって、家庭ごみの減量につながり、観光客によるステーションへのごみ混入防止やカラス被害軽減といった効果もあると考えていたと思います。今でも観光客によるごみ混入防止やカラス被害の軽減効果は考えられると思いますが、戸別収集をするしないに関わらず、1年2年経って市民のごみ減量意識が進めばごみの減量につながり、戸別収集モデル地区とクリーンステーション地区の減量の差が変わらなくなる可能性もあると思います。すると燃やすごみを4%減らすのに戸別収集で4億円かけるのか、という疑問が出てきます。4%減らすために他の施策は無いのでしょうか。戸別収集をやらなければ減量が進まない、または、福祉の面でも戸別収集をやった方がより良いという2通りの目的が提示してあり、少し分かりにくいのではないかと思います。減量効果として、基本的な施策の方向として進めるべきだと思いますが、時の流れとともに市民意識が変わる中で柔軟に物事を見ていかなければいけませんし、いろいろな情報提供が必要だと思います。戸別収集を実施地区とクリーンステーション地区の意識の差が歴然としているので、もう一工夫しないと状況は変わらないですし、難しくなっていると思います。

深野会長：当初戸別収集が必要不可欠で、3万トンの焼却量を超えてはならないという施策の目的がありました。いろいろな面があり、また時間の経過とともに「やった方がよい」という領域にも入っています。その中で一番課題となるのは経費です。4%で4億円の費用対効果について、説明が必要なのではないかとご意見が多いと思います。

波多邇委員：橋詰委員から観光客のごみの話がありましたが、現在、観光客のごみの捨て場がない状況です。観光客のごみは持ち帰りが基本となっています。観光客のごみは事業者が回収したり、観光客が持って帰ったり、駅の近くであればJRで捨てている可能性があります。JRでは観光客の増加に伴い3~4割ごみが増えているということも聞きました。事業者も積極的にごみを回収していますので、このような状況から観光客のごみは増えているというより減っている状況だと思います。

牧田委員：観光のごみについては、事業者として店頭でごみを回収できるようにしています。イベントにおいてもイベント出店団体が協力して事業者として一生懸命対応しています。また、リユース食器を使用するイベントが増えており、エコなイベントが鎌倉のイベントの柱となってきました。観光のごみがその辺に捨てられることが皆無ではありませんが、事業者も一生懸命配慮をしています。戸別収集で本当にごみが減るのか懸念があります。また、戸別収集3品目であれば良いけれど1品目は嫌だという方もいるのではないのでしょうか。きちんと検証するのであれば、このまま3地区でモデル事業を続けても、あまり意見の変化はないのではないのでしょうか。ごみに対する意識は市外から来ている方も高くなっていますし、イベントに対しての事業者の意識の高さも感じます。3品目の戸別収集を希望している人達にとって1品目でこれだけコストがかかるとなるとどうでしょう。その辺のところをもう一度厳しくチェックして頂いた方がよいと思います。

深野会長：経費についてですが、1品目で4億円の増額ということでしょうか。3品目ではどうなのでしょう。

谷川担当課長：3品目での経費は取得していないのですが、経費は増額になります。4億円は1品目のみの経費となります。

深野会長：P8の新たな補助員というのは収集の人を増やすという意味でしょうか。

谷川担当課長：これまでの見積もりでは計上されていない収集漏れなどの待機要員の経費です。取り残しは事業者側のミスでもありますので、協議の中では経費として認めることは難しいと事業者側に伝えていきます。経費としては2千万円程度を事業者側はみています。

深野会長：補助員の経費が上乗せされているということですね。

谷川担当課長：はい。戸別収集の方には通常認められないような補助員の経費が上乗せされています。クリーンステーション収集には入っていません。今までのモデル地区ではそのような経費は入っていません。

奴田委員：鎌倉市世帯数5%程度のモデル地区の方々の3分の2が戸別収集に賛成しています。クリーンステーション地区では75.2%が反対しています。モデル地区では実際に戸別収集に関わっている人が賛成しているのに対して、クリーンステーション地区の人達は話を聞いているだけで反対しています。先ほど部長から反対している方にアンケートの結果を理解してもらうという話がありました。有料化についても、それほど大きな賛成があった訳ではありませんが、現状では皆さんが減量に協力して実施しています。モデル地区の方達の意見を参考にし、反対している人たちが戸別収集に向かっていくような説明を行う必要があると思います。賛成反対が拮抗する程度までになれば市民の皆さんも協力されるのではないかと思います。

石井委員：戸別収集反対という意見は非常にネガティブな捉え方をされてしまっていますが、反対というのは4億円もかけてこの施策を実施するのか、他のことに4億円を使ったほうがよいのかという議論につながると思います。モデル地区の方の中にはお金を払ってでも戸別収集をして欲しいという方もおり、それほど戸別収集が良いとおっしゃる方もいるということは分かりましたけれど。

奴田委員：牧田委員がおっしゃったように、4億円の費用対効果が認められれば、費用をかけても行うことは必要かもしれませんが、無駄な費用を使ったという印象の中で理解を求めてはいけないと思います。

深野会長：4億円については、詳細は分かりませんがそれほどかかるのかという印象もあります。審議会としては、当初有料化・戸別収集によってごみ削減につなげるという大前提でスタートしましたので、戸別収集を否定したり効果を疑ったりしているわけではありません。有料化の時も多く賛成が得られた訳ではありませんが、クリーンステーション地区の戸別収集反対意見75%というのは無視できないというのが一致した意見です。今後の対応は資料1-3にある通り、平成28年度1年間で1品目をモデル地区で先行実施し、今後の検証をしながら平成29年度の10月からより多くの地域で実施するということです。もう少し検証や説明・説得をすることは許されると思いますが、そこがどういう結果になるか、平成29年度以降をどうするか、現段階で審議会としての結論を出すということは難しいのではないかと思います。

石井部長：賛否は分かれる中どこかで決断をしていかなければならないと思います。我々と皆さんが思っている課題は一致しています。4億円の経費と75%が現状維持で良いというご意見の部分については整理すべきだと考えます。市民や事業者の皆様に説明、協議した中で、今の予定では平成29年度を目途に実施するというのを市の方針としてお示ししていますので、こ

れに向かっていくことを前提にしたいのですが、その２つの課題は認識しています。状況についてはまたご報告させていただきます。

深野会長：戸別収集についてはいろいろな意見がありますので、審議会委員の意見はだいぶ伝わったのではないかと思います。

議題 1 第３次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画について

事務局から第３次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画（素案）及びごみ発生量の将来予測（減量・資源化の施策を推進しなかった場合）について説明した後、審議を行いました。

浅川委員：ごみ量の予測は難しいと思います。主要な計画数値のほとんどは先ほどのような説明の通り様々な施策を取った結果としての平成 27 年度を基点としてほぼ横並びで推計しています。それは現時点で妥当な予測だと思います。推計値をもとに出した数値についてですが、処理について余裕はあるのでしょうか。

小池次長：鎌倉市では名越クリーンセンター１炉になりますので、３万トン大きな目標になっています。以前ご説明した通り、名越クリーンセンターの地元の皆様のご理解により、平成 27～29 年度の３年間については３万３千トンまで焼却できることになりました。平成 30 年以降につきましては、３万トン以下になるわけですが、この数字を見てもギリギリだと思っています。計画の中で３万トン以下にするのは当然ですが、我々はこの数字で満足しているわけではなく、これ以上の減量をこの 10 年間でやっていく必要があると思います。

浅川委員：いくつかの施策で減量をすすめていくというお話がありました。もともとのスタートは先ほど橋詰委員からお話しがありましたように３万トン以下に減らさなければいけないという中で有料化と戸別収集をセットで行うということでした。今までリサイクルで頑張ってきたけれどもこの２つの選択をされたと認識しています。平成 37 年までの新しい基本計画の中においても処理ができなくなるのかという部分は気にすべき点であり、長期的な見通しを立てた中で廃棄物の処理ができないということであれば、戸別収集や有料化に取り組んでいかなければいけないと思いました。

深野会長：28 頁の焼却量の見込みは、平成 37 年度には３万トン未満になっています。39 頁「家庭系ごみ戸別収集」が新たに訂正されています。この記載の仕方についてですが、「経費の削減」の部分に先ほど議論に多くの時間を割いたことから、先ほどの議論を踏まえた上で、例えば経費と減量の効果について記載に改めたほうがよいのではないのでしょうか。私が見たところ戸別収集について書いてあるのは 23 頁、24 頁および 39 頁などですので、ここについてより議論を踏まえた記載に改めたほうがよいと思います。

保坂委員：モデル地区の３地区では減量効果に偏りがあり、どれだけ信頼すべきデータなのかということとを前回発言しました。モデル地区での 3.63%の減量効果が全市でも現れるもののでしょうか。山ノ内で減量効果が大きかったのは小規模事業所が適切に排出するようになったためということもありました。モデル地区では減量に対する意識が高かったかもしれませんが、利便性ということからモデル地区では戸別収集に対する賛成が多かったかもしれませんが、アンケート自体は皆さんが経費のことまで考えて 81.3%の方が賛成の回答をしたかわかりません。減量効果についての数字をそのまま載せて良いのか心配です。

橋詰委員：家庭系ごみ戸別収集の話で、議論を踏まえた文章にする必要があると思います。39 頁の記載で施策 4－1「市民サービスの向上」のところに戸別収集を記載していますが、施策 1－1

「リデュースの推進」にも入ってよいのではないのでしょうか。

小池次長：確かに施策１－１ リデュースの部分にも両方かかっています。どちらかに入れなくてはいけないため、高齢者の方の負担軽減や利便性を踏まえ、利便性の観点から４－１に記載しました。

深野会長：どうしても戸別収集が必要だという意味で、施策１－４にも記載があつてよいかと思います。まだ議論が続いておりますので、もう一度次回に基本計画についての議論をしたいと思いますが、どうでしょうか。

小池次長：橋詰委員がおっしゃった記載の仕方もありますし、削減量もあると思います。その辺の議論がまだ十分でないと思います。市民公募する前にお集まりいただいて、議論をしなければと思います。

深野会長：基本計画については、もう一度議題として討議したいと思います。皆さんよろしいでしょうか。

全 員：はい。

その他 １ 次回の当審議会の開催日程等について

内海担当課長：平成 28 年 1 月下旬に素案を基に市民意見公募を予定しています。1 月中旬頃に改めて審議会の開催を考えたいと思います。日程等についてはご都合をお伺いし、連絡させていただきます。

深野会長：以上で本日予定されていた議題はすべて終了いたしました。これを持ちまして第 1 回鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会を閉会いたします。本日は遅くまでありがとうございます。